

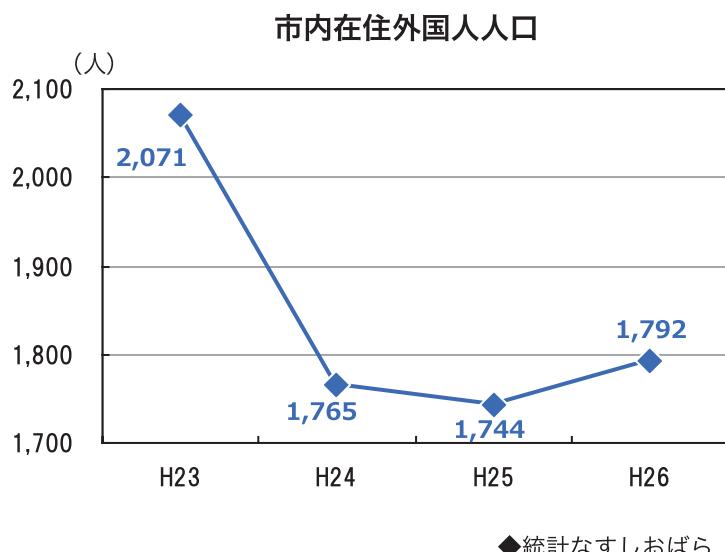


基本施策 5 - 3 姉妹都市交流・国際交流を推進する

現状

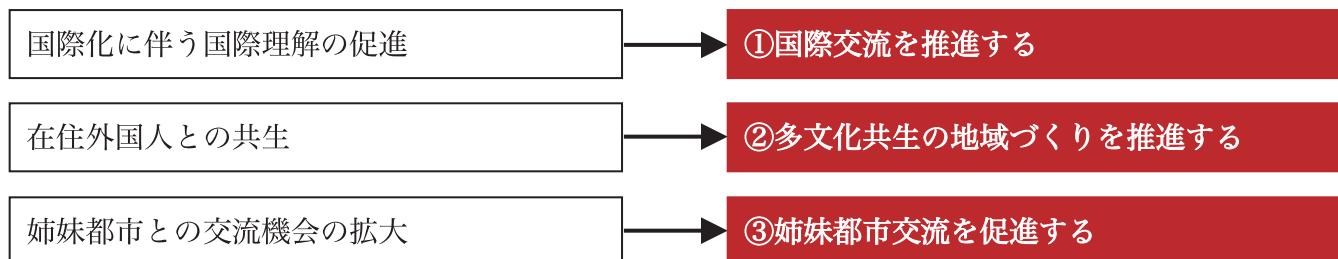
東日本大震災により一時的に在住外国人の人口は減少したものの、在住外国人の人口は再び増加傾向にあります。また、交通・情報通信技術の発達や産業・教育分野等での交流の活発化に伴い、本市でも急速に国際化が進展しています。そのような中、平成28年6月にオーストリア共和国リンツ市との姉妹都市提携が行われ、異文化に対する市民の理解や交流への支援が求められています。

また、国内においては、姉妹都市であるひたちなか市、新座市、滑川市との交流が行われていますが、今後市民レベルでのさらなる相互交流と友好親善が求められています。



課題

具体的な施策



目指すまちの姿

外国人も暮らしやすいまちとなり、地域での様々な交流が行われています。
市民による姉妹都市との様々な交流が行われています。

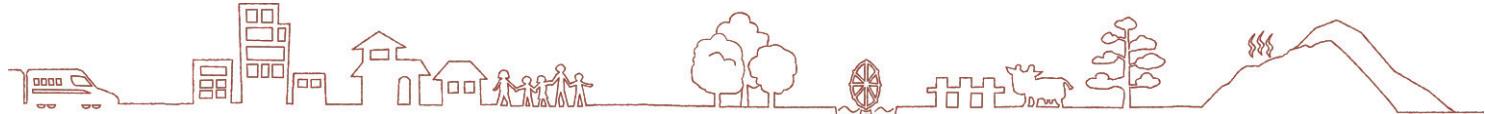
具体的な施策		取組内容	目標値			担当課
			指標	H26 (基準年度)	R4 (目標年度)	
①	国際交流を推進する	・国際交流員の配置・活用 ・国際交流協会への支援	在住外国人との交流事業の参加者数	90人／年	150人／年	秘書課
②	多文化共生の地域づくりを推進する	・外国人生活相談の実施 ・多言語による生活情報等の提供 ・日本語の学習機会の提供	日本語教室の延べ受講者数	499人／年	600人／年	秘書課
③	姉妹都市交流を促進する	・姉妹都市との交流事業の促進 ・国際姉妹都市との交流支援	相互交流実施数	13件／年	20件／年	秘書課



オーストリア・リンツ市と姉妹都市を締結



国際交流員の活動



基本施策 5-4 中心市街地を活性化させる

現状

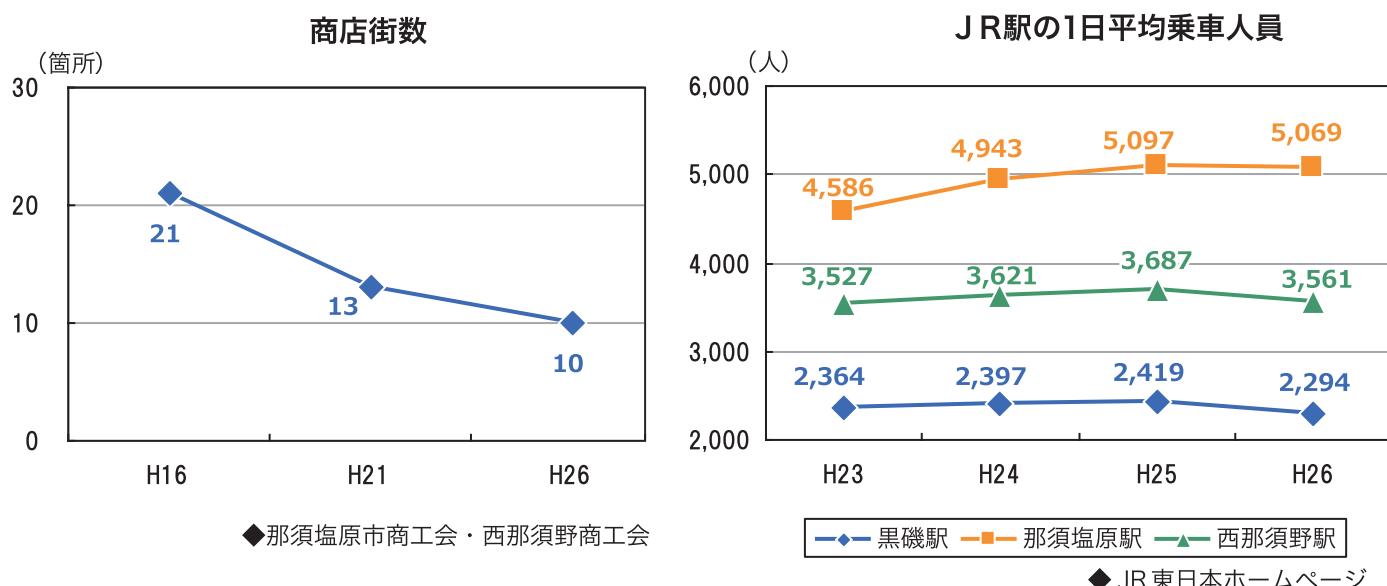
クルマ社会の進展により郊外居住が容易となつたことや郊外型の大規模店舗進出等による消費者の購買行動の変化などから、中心市街地はかつての賑わいを失っています。

また、商店街においては事業主の高齢化や後継者不足、空き店舗の増加等、衰退が進んでいます。

この衰退に歯止めをかけようと、黒磯駅周辺地区においては、空き店舗を活用した集いの場「カワッタ家」が市民主体で設置され、そこを活動拠点とする市民団体により様々なイベントが開催されています。また、建築予定の「(仮称)まちなか交流センター」や「(仮称)駅前図書館」の活用と環境整備を行うことで、駅周辺地区の魅力向上を図っています。

西那須野駅周辺地区においては、ハード面の整備はおおむね終了し、ソフト面において、商工団体を中心に市民主体の「まちづくり活動事業」「イベント活動事業」が展開されていますが、恒常的な賑わいに課題を残しています。

那須塩原駅周辺地区においては、良好な生活環境の確保や県北の拠点都市にふさわしいまちづくりを行うことを目的とした区画整理事業が完了していますが、広域的な商業・業務・行政機能の拠点としての土地の高度利用が進んでいません。



課題

- 中心市街地の魅力向上
- 商工団体・市民活動団体との連携
- 黒磯駅周辺地区の低未利用地の有効活用と活性化
- 那須塩原駅周辺の土地の高度利用の促進

具体的な施策

- ①まちなかの賑わいを創出する
- ②黒磯駅周辺地区を整備する
- ③那須塩原駅周辺地区を整備する

目指すまちの姿

駅周辺地区が活気のあるまちなみとなることで、中心市街地に多くの人が訪れ、商店街は買い物客で賑わい、地域住民の交流の場となっています。

具体的な施策	取組内容	目標値			担当課
		指標	H26 (基準年度)	R4 (目標年度)	
① まちなみの賑わいを創出する	・JR3駅周辺地区的活性化 ・商店街の活性化 ・空き店舗の活用 ・商工団体・市民活動団体の組織強化	中心市街地の空き店舗数	43件 (H28)	34件	商工観光課
② 黒磯駅周辺地区を整備する	・黒磯駅前広場の整備 ・(仮称)まちなみ交流センターの整備 ・(仮称)駅前図書館の整備	滞在時間1時間以上の割合	17.6%	48.4%	都市整備課
③ 那須塩原駅周辺地区を整備する	・那須塩原駅前広場の整備を中心とした那須塩原駅周辺地区都市再生整備計画事業の実施 ・那須塩原駅東口へのエレベーター設置	那須塩原駅周辺地区イベント数	6回／年	10回／年	都市整備課



中心市街地でのイベント

関連する計画

黒磯駅周辺地区都市再生整備計画(平成26～30年度)

